

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 幼児教育総合推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 学校支援課 総合支援第一係 電話番号：058-272-1111 (内 3698)

E-mail：cl7782@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,400千円 (前年度予算額：1,000千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
要求額	1,400	0	0	0	0	0	0	0	1,400
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

幼児教育の一層の振興を図るために、令和元年度までの4年計画で実施した「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン～「つながる・深まる幼児教育の推進～」は、その取組の成果や実践事例を積極的に県内に広めてきた。「岐阜県幼児教育推進会議」においては、このプランの検証を行い、今後の岐阜県の幼児教育の方向性を総合的に検討し、第3次アクションプランの作成に向けて取り組む。また、県内広く幼児教育の充実が図られるよう、『研究団体』に実践研究を委託し、その成果を県内に普及する。

(2) 事業内容

① 幼児教育推進事業

『岐阜県幼児教育推進会議』

- ・ 幼児教育の一層の充実に向け、有識者や行政・学校関係者、NPO法人、PTA代表、県の関係各課による「岐阜県幼児教育チーム」で構成する「岐阜県幼児教育推進会議」を設置し、「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン」を検証するとともに、成果や実践事例をより効果的に県内に広める方策や今後の岐阜県の幼児教育における質の高い教育・保育に向けて、第3次岐阜県幼児教育アクションプランについて検討を行う。

『実践研究指定園への支援訪問』

- ・「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン」の具現に向けて、「育ちと学びをつなぐ幼児教育」を推進する実践研究が、計画的かつ組織的に進められ、確かな成果が上げられるよう、指定園を訪問し、支援する。

②「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン」の推進

『研究団体』による実践研究

- ・幼児教育の充実について、岐阜県幼稚園教育研究協議会（公私立幼稚園からなる研究団体）に研究実践を委託することにより、県内全ての公私立幼稚園に研究成果の普及を図る。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	48	岐阜県幼児教育推進会議委員の謝金
旅費	187	岐阜県幼児教育推進会議の開催（4回） 研究団体・園への指導訪問
消耗品費	6	岐阜県幼児教育推進会議の印刷用紙等
会議費	2	岐阜県幼児教育推進会議用のお茶（4回）
印刷製本費	357	第3次岐阜県幼児教育アクションプランの印刷製本
委託料	800	幼児教育研究団体への研究委託
合計	1,400	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

- ・第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針3 未来を切り拓くための基礎となる力を育む教育の推進

目標18 人間形成の基礎を培う幼児教育の充実

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

平成28年3月に策定し、令和元年度まで実施してきた「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」の内容を継続し、令和5年度までに、岐阜県内全ての幼稚園や保育所、認定こども園と小学校が、幼保小の連携・接続に積極的に取り組み、幼児期から児童期の教育の一層の充実を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
幼保小の連携における教育課程の編成・指導の工夫をした小学校の割合	62.6% (H26)	回 (H)	回 (H)	84.0% (H30)	100% (R5)	%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

(1) 岐阜県幼児教育推進会議の開催（全2回）

第1回 令和2年11月9日（月）

第2回 令和3年2月16日（火）

(2) 研究団体への指定による実践研究

岐阜県幼稚園教育研究協議会に、「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン」具現のための研究実践を委託し、県内全ての公私立幼稚園に研究成果の普及を図る。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

岐阜県幼児教育推進会議において、「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン」の実践状況について把握するとともに、その取組の成果と課題を明らかにできた。今後は、県内の実践と「岐阜県版接続期カリキュラム」の普及に努め、幼保小の連携・接続が進めていけるよう教育課程の工夫改善等を行い、実施の一助を担う。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
（評価） ○	平成28年3月に策定した「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」に基づいて作成した「岐阜県版接続期カリキュラム」を協議会や研修会等で積極的に活用し、県内に広く普及・啓発を図り、活用を促し、幼児期から児童期の教育の一層の充実を図ってきた。
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
（評価） ○	各所属に配布された「岐阜県版接続期カリキュラム」をもとに、それを積極的に活用して推進を図ることで、幼保小の連携・接続の在り方への理解が図られてきた。
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
（評価） ○	「岐阜県版接続期カリキュラム」を幼児教育・保育に関わる行政機関から成る「幼児教育チーム」が連携して普及・啓発を図ることで、より効率的に進められるようにした。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 「第2次岐阜県幼児教育アクションプラン『ぎふっこ』すこやかプラン」を、県内全ての市町村及び幼稚園や保育所、認定こども園等と小学校へ広め、県内どこにおいても一定水準の幼児教育が行われる必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 本県の幼児教育の更なる充実を目指し、幼稚園や保育所、認定こども園等と、家庭・地域社会、行政機関等が連携した教育・保育が推進されるよう本事業を継続する。そして、幼児期から児童期の教育の一層の充実を図る。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【○○課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	